

3月、いろんな意味でたびだちの季節です。進学・就職、ガラッと変わる環境へ飛び込む準備、着々と進んでいますか？ 春先は気候が不安定、花粉も本格化しています。体調管理はしっかりお願いしますね。



猛威を振るったインフルエンザもようやく沈静化しました。毎年のことですが、その勢いとどまるどころを知らずといった感じでしたね。また、1日はものすごい春一番が吹き荒れましたね。一方、2日には福井県小浜市（若狭神宮寺）で「お水送り」の神事が厳かにとり行われました。鶉の瀬（うのせ）で護摩を焚いた後、お香水（こうずい）が遠敷川（おにゅうがわ）へ注がれ、このお香水が10日かかって東大寺二月堂の「若狭井」に届くとされています。近畿に春を告げる「お水取り」も目の前、気温が不安定で体調管理が難しいですが、こまめに上着を脱ぎ着して過ごしましょう。

【ニュース】

1. 診療日の変更をお知らせします。

今月の診療日の変更はありません。

2. 骨そしょう症の検査の日程

3月は20日（火曜日）、5月は15日（火曜日）いずれも午前です。前回の検査から4ヶ月、間が空いていれば再度受ける事が出来ます。ふるってお申し込み下さい。

3. 川柳コーナー 時事通信です

ヘリコプター 墜ちても国は手も出せず
情けないやら 腹が立つやら

平和賞 ICAN 受賞お目出度う
吾も嬉しや 被爆者なれば

共謀罪 無理矢理通す 凶暴さ

改憲は 讀賣読めと 会見し

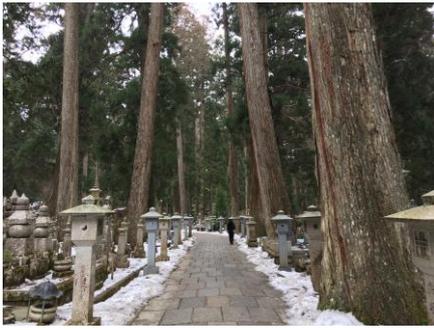
【ミタクリ歳時記 利休忌によせて】



2月27日（火曜日）は堺の南宗寺で利休忌が営まれました。竹山市長もご出席されました。茶は日本人にとって、もっとも親しい飲物であり、茶の湯も作法と「寄合い」という心の道につながります。茶はもともと解毒・興奮利尿剤であり薬草です。奈良時代に、中国から薬用として渡来します。芸事としての茶湯の形式は、鎌倉時代に禅寺の日常茶飯の様式に基いたものであり、室町初期に完成します。その後、村田珠光(1423~1502年)によって

茶禅一味の作法がつくられ、珠光の養子、宗珠に学ぶのが武具豪の商、武野紹鷗(じょうおう)です。諸大名と取引の多かった紹鷗は、茶湯に「わび」「さび」という歌道の理念を入れ、四畳半の茶室を完成します。千利休(1522~91年)は紹鷗の弟子です。利休は茶道の祖として有名ですが、堺の納屋衆であり、宗匠として大成したのは、その有する富力によるところが大であった、といわれています。当時の茶人は、ほとんど例外なしに豪商です。堺の繁栄とともに堺商人も着実に成長し、富を蓄積します。当初の茶湯は、催しが終わったあと、必ず書院で馳走する風習もあります。また茶会が近畿だけでなく西国・九州の商人も集めて年に20回~30回と開かれていることを考えますと、商取引を目的としていることも十分に推察されます。天正以前の茶碗の大部分は中国の天目であり、茶会は豪奢でした。日本の茶碗が表われるのは、文禄・慶長の役以後、朝鮮の陶工の渡来によって、陶芸技術が進歩してからです。また「わび」の風潮のなかで唐物茶碗が高麗茶碗にかわり、更に利休の指導で焼かれた長次郎の「楽焼」が有名です。利休はわびに徹した簡素な茶湯を大成し、市民に茶の湯をひろげるわけですが、他方その目利きによって、茶器を結構高く売りつける、堺商人の面目が十分に表われています。茶湯は、富裕な堺に始まったわけですが、その後、日本人の心に深く浸透しています。今日の茶湯が、私たちの生活にどう反映されているかも考えたいものです。

【欣子先生の診察便り】



やっと暖かくなってきましたね。花粉症やめまいの患者さんがぼちぼちこれたら春だなあと感じます。ことしはインフルエンザも大流行でしたがミタクリでの密かな流行は・・・しもやけが例年以上に多く、なかには手先のチアノーゼ、凍瘡まで。例年にない寒さだったような気がします。寒さに伴う病気はいろいろありますが命を奪うのが低体温症です。雪山で遭難して・・・という極端なイメージしかないかもしれませんが、実は冬場の家での低体温症での死亡は熱中症の 1.5 倍あるそうです。大阪では考えたこともなかったのですが今年の冬のような寒さがこれからも続くようなら本気で対応しないとイケないかもです。認知症や糖尿病性神経障害で温度がわからないとかがハイリスクですが、電気代を節約しないと生活できないという切実な方は是非診察室で相談してください。経済的なことも医療の一部ですから地域のネットワークを駆使して対策を考えます。室温を 20 度以上にする必要があるのでこのことですから一

度室温を測ってみてくださいね。

さて、先日、高野山に行ってきました。小学校の林間学校以来です。近年インバウンド（外国人の旅行者）が多く訪れていると聞いてたので、混雑していることを覚悟のうえで日曜日に行ったのですが・・・橋本（高野下）から先が台風で寸断されているとのことで橋本駅からバスで 1 時間かけて大門南へ移送、そこからバスの乗り換えと不便になっていることが響いているのでしょうか、町はさびしい状態でした。しかし、雪が残り、凜とした空気の中で鳥の声が聞こえる素敵な休日を楽しんできました。お店で目に付いたのがお線香。そうそう、堺のお線香がたくさん売っていました。堺は中世、漢方生薬とともに白檀や沈香といった香りのよい材料が水揚げされて線香製造がさかんになったのでしたね。高野山はこれだけの宗教都市ですから線香は大量に堺から運ばれたのでしょ

さあ、どんなルートを通って？

海路で紀の川を上がってきたのかな？1 月号のミタクリ通信で書いた竹ノ内街道から高野街道を経て陸路で来たのかな？古（いにしえ）の人々の生活を想像するのが好きです。ご存知の方、ぜひ教えてくださいね。あ、三谷先生へのお土産は“般若（はんにゃ）湯”と弘法大師の“千枚通”です。いずれも高野山での“医療”です。これは私が解説するより三谷先生、お願いしますね！

【外来担当医一覧 2018年3月現在】

予約電話番号：072-260-1601

診察受付時間	月	火	水	木	金	土
午前 (9:00-11:00)	巽 米本	三谷	巽/三谷	巽	巽/三谷	三谷
午後 (14:00-16:00)	巽(予約) 米本(訪問診療)	巽(訪問診療)	巽(予約)	巽(訪問診療)	巽(予約) 三谷(訪問診療)	
夜診 (16:30-18:30)		三谷	三谷		三谷	